

2016 年度グローバル地域文化学部自己点検評価報告

I. 教育活動

2016 年度に開講した主な科目について述べる。

- ① 必修科目（演習系）：1 年次対象の「グローバル地域文化導入セミナー」、2 年次対象の「グローバル地域文化入門セミナー」、3 年次対象の「グローバル地域文化発展セミナー」、4 年次対象の「グローバル地域文化専門セミナー」を開講した。また 4 年次の学生には「卒業論文」の履修も課し、担当教員が卒業論文の執筆の個別指導を行った。その結果、ヨーロッパコースでは 64 名、アジア・太平洋コースでは 43 名、アメリカコースでは 43 名が卒業論文の提出・審査を経て、合格と判定された。
- ② 必修科目（講義系）：1 年次対象として「グローバル地域文化論」および「グローバル・スタディーズ論」を、2 年次対象として「グローバル地域文化入門」および「グローバル地域文化の基礎」を開講した。2 年次対象の科目は 3 コースそれぞれにクラスを設け、各対象地域の現代事情など学生が関心を持って学べるようなトピックを取り上げると共に、学生の発表を取り入れるなどして学生の積極的な取り組みを促した。
- ③ 選択必修科目（スタディ・アブロード科目）：学部独自科目として「海外インターンシップ」を開講し、本年度は夏に米国のロサンゼルス（8 名）、カナダのトロント（4 名）、中国の上海（5 名）に学生を派遣した。帰国後、学生たちによる研修成果報告発表会を公開で行なった。また本年度から新たに「海外語学プログラム（英語）」を開講した。21 名の学生が、ウェスタン・ミシガン大学にて 1 セメスターにわたる研修を受け、事後授業では英語による成果発表を行った。
- ④ 選択必修科目（講義系）：グローバル・イシュー科目など、一部の講義科目については、低学年から専門的な基礎知識を習得させる目的で、履修年次を下げた。
- ⑤ 選択科目：コースごとに当該地域の歴史的形成や文化の多様性、現代の課題など多岐にわたる内容の科目を開講した。学生は各自の関心に応じ、コース横断的にこれらの科目を履修した。

II. FD 活動

本学部 FD 委員会の活動として、2017 年 1 月に 1 年次生（2016 年度生）と 3 年次生（2014 年度生）に対して学部教育への満足度・要望などを尋ねるアンケートを実施した。得られた結果は、集計して科目担当の各教員にフィードバックを行った。英語教員に対して、2016 年 9 月初旬に、語学教育のためのワン・デイ・ワークショップを行い、教室設備・機器などの効果的な活用法、マークカードの集計方法とこれを利用したフィードバックの方法、学習支援システムの活用法、英語多読活動の授業への取り入れ方などについての研修を行った。また父母懇談会は、12 月 10 日（土）の 13 時～14 時 30 分に行った。参加者数 228 名（173 組）、個別面談 56 組であった。学部学生の学習状況に関して意見交換をした。父母からいただいた貴重なご意見は、今後の学部運営に生かしたい。

III. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて年 2 回、研究機関誌『GR』（論文、翻訳、書評、書誌、各種の批評と紹介、会員の活動報告など）を発行した。12 月にはグローバル地域文化学会第 4 回学術講演会「グローバル化と食文化——和食文化の衰退はグローバル化にあるのか」（講師：佐藤洋一郎氏[人間文化研究機構理事]）を主催し、学内外からの参加者を得て活発な質疑が行われた。また、教員の研究活動の充実と学生会員への教育を兼ねて小規模講演会開催補助制度を設けているが、この制度を活用した小規模講演会として、7 月に『イスラーム・スカーフ事件』から四半世紀——フランスにおけるライシテ（非宗教性原則）と移民社会」（講師：宮島喬氏[お茶の水女子大学名誉教授]）を開催した。さらに、学部主催講演会として、6 月に「ヨハン・ガルトゥングと東アジアの「積極的平和」を語ろう」（講師：ヨハン・ガルトゥング氏[トランセン国際共同代表]）、「アーモスト大学のリベラル・アーツ教育」（講師：キャサリン・エプスタイン氏[アーモスト大学学務担当副学長・歴史学教授]）を開催した。

また、教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動

を活発に行った。詳細は、本学研究者データベースを参照されたい。
(URL:<https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/>)

IV. 国際交流活動

学部独自でセメスタープログラム、海外インターシップ、グローバルキャリア講演会、語学検定支援(受験料半額補助)、IELTS 受験対策講座を行なっており、学生の留学、語学力向上、国際的ビジネスへの就職支援を実施している。

延世大学校人文芸術大学国語国文学科と本学部との学生交換協定により、本学部生3名を派遣した。

海外研究員等の受け入れ:ハワイ大学マノア校より客員研究員木村あや氏(6月1日~7月28日)、トロント大学大学院生アロン・エマニュエル・ピーターズ氏(2015年9月1日~2016年8月29日)、アーモスト・同志社大学短期交換教員としてアーモスト大学学務担当副学長・歴史学教授キャサリン・エプスタイン氏(6月12日~6月21日)、アーモスト大学アーモスト・同志社フェローとしてオマ・ピネダ・ジュニア氏(2016年9月1日~2017年5月28日)を受け入れた。

V. 社会貢献活動

大学の枠を越えた本学部教員の活動として以下のものがあつた。6月11日にキャンパスプラザ京都で開かれた欧州留学フェア 2016(駐日欧州連合代表部、欧州委員会[教育・文化総局]主催)で、「ヨーロッパ留学経験者によるパネルディスカッション」に関わつた。7月末に星槎大学(神奈川県に本部を置く私立大学)と水俣病センター相思社の共催による教員免許更新講習会(水俣市)にサポート役として参加した(本学部小野文生准教授)。本学を会場とした学術活動(京都ユダヤ思想学会の公開シンポジウム、一神教学際研究センターの国際シンポジウム)に関わつた(本学部小野文生准教授)。11月19日に立命館大学衣笠キャンパスで「海を渡るベースボール-民族・移民・国家のかかわりから」という題の一般聴衆にも開かれた国際セミナーが開催されるのに協力した。本学部教員がこの国際セミナーの発案と企画に参画し、報告者の一人として発表した(本学部和泉真澄教授)。

小中高生の教育活動に本学部教員関わったものとして以下のものがあった。12月16日に西宮市立西高等学校で、「グローバル化の中の中国文化戦略」という題で高校出張・模擬授業を行った（本学部副島一郎教授）。他に、雲雀丘学園高等学校（本学部遠藤徹教授）、私立明星高等学校（本学部尹慧瑛准教授）、大阪府立千里高等学校（本学部立林良一准教授、本学部水谷智教授）、私立大阪夕陽丘学園高等学校（本学部崎田智子准教授）、京都府立洛北高等学校（本学部アイスン・ウヤル准教授）で高校出張・模擬授業を行った。

VI. 学生支援活動

①学習支援:外部の外国語（英語・初修外国語）検定試験の受験に際し、受験料の半額補助を行なっている。また、TOEFL ITP®に加えて、前年度に引き続き IELTS の集中対策講座・検定試験の団体受験を実施し、留学を卒業要件とする本学部の学生に向けて、語学力向上のための機会をさまざまな形で提供した。

②キャリア形成支援:「グローバルキャリア・シリーズ」と銘打った本学部生向けのキャリア説明会を計4回開催した。第4回目は、計19名の本学部1期生に就職活動の体験談を語ってもらい、2～4期生との交流の機会を設けた。

第1回 小林義明氏（JTB 西日本京都支店）「『旅のチカラ』を未来の価値へ～グローバルに広がる旅行業界の仕事～」（7月11日）

第2回 Regine DIETH 氏（本学部教員）「在日ドイツ企業が求めている人材」（10月31日）

第3回 山川薫氏（ロイター通信社東京支局）「海外通信社の仕事とは? : 世界に発信する記者とデスクの現場」（11月22日）

第4回 本学部学生（2013年度生）「先輩に聞いてみよう! GR 学部生の就活体験談」（1月17日）